教科・科目名（単位数）		農業・農業情報処理演習（２単位）		ＨＲ コース	３年ＡＢＣ選択
学年	３年	使用教科書・副教材等	農業情報処理（農文教）		
目標　　社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、コンピューター（ソフトウェア）に関する応用知識と処理能力の技術習得を図る。農業情報および環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。					

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	情報社会に積極的に参画する態度を持ち、情報技術（コンピューター）を主体的に活用し、情報社会の課題を解決しようとしている。
②　思考・判断・表現	情報機器や情報通信ネットワーク、ソフトウェアを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに、主体的かつ効果的にコミュニケーションを行うための表現技術を習得している。
③　技能	情報技術を活用するための技能を習得している。
④　知識・理解	情報及び情報技術を活用するための知識、情報及び情報技術が果たしている役割・影響を理解している。

評価方法	授業毎の記述の点検、確認、分析 実習毎の行動の観察、確認、分析 （定期テスト、小テスト、授業・実習レポート、提出物への取り組み状況、授業・実習への取り組み状況）

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	○ｿﾌﾄｳｪｱと情報の活用 ○情報化社会のモラル ○情報技術の活用 （ワープロソフト）	○パソコンで利用できるソフトウェアの種類と概念 ○高度情報化社会におけるモラル概念と、データ・個人情報を保護するセキュリティシステムを学習する。 ○ワープロソフトの特徴と機能を理解し、速度文・図を含む文書の作成（表・罫線・網掛け・図の挿入・図形の挿入を利用した技術の習得）を学び、農作物の販売広告デザインや、フィールド図面などに活用する。
2	○情報技術の活用 （表計算ソフト）	○表計算ソフトの特徴と機能を理解し、関数の応用（INT・AND・OR・IF VLOOKUP・ROUNDOUP関数）、および表・グラフの作成（棒・折れ線・円・複合グラフ）を学ぶ。 ○実際に農業実習において得たデータの演算処理、表・グラフ等における表現技法を学習する。
3	○情報技術の応用 （プレゼンテーションソフト）	○プレゼンテーションソフトの特徴と機能を理解し、基本操作・応用操作（文字入力・静止画挿入・動画挿入・図形の加工・表の加工・グラフの作成・画面切り替えの設定・アニメーションの応用）を学ぶ。 ○プレゼンテーションソフトを活用し、課題研究およびプロジェクト学習に活用する技術を身につける。

教科・科目名（単位数）		数学・　数学Ⅱ　（4単位）		ＨＲ・コース	Ａ・Ｂ選択
学年	３年	使用教科書・副教材等	新数学Ⅱ　（実教出版） ステージノート数学Ⅱ　（実教出版）		

農業高校における数学科としての目標

学習した内容を活かした、新しい物事を生み出す力を育てる。

順序立てて物事を考え、最終目標にたどり着く手段を考える力を養う。

科目目標

方程式・式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	方程式・式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
②　思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付けている。
③　技能	方程式・式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④　知識・理解	方程式・式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

評価方法	・定期テスト、小テスト ・提出物、課題の取り組み ・授業への取り組み

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	方程式・式と証明	整式の乗法・除法や分数式の計算をすること、等式と不等式の証明をすること、数の範囲を複素数まで拡げて二次方程式や高次方程式を解くことを中心に扱います。
	図形と方程式	直線や円などの図形を方程式で表現し、それを用いて図形の性質や位置関係を考察することを中心に扱います。
2	三角関数 指数関数 対数関数	三角関数は、角を一般角まで拡張して三角関数を扱います。数学Ⅰで学習した三角比を拡張した内容です。 指数関数・対数関数では、指数を実数まで拡張して指数関数及び対数関数を扱います。
	微分法	微分について学習します。微分法を応用し、関数の値の変化を調べ、３次関数のグラフを描きます。また、関数の最大値や最小値を求めます。
3	積分法	積分について学習します。 積分を応用し、様々な形の面積を求めます。

教科・科目名（単位数）	理科・化学　（２単位）	ＨＲ コース	全クラス （ABC 選択）

学年	３　年	使用教科書・副教材等	新版　化学（実教出版）

農業高校における理科としての目標：科学における基本的な原理・法則を理解し、農業科目を学ぶ上で必要となる論理的な思考力を養うことを目標とする。
科目目標：化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。
③　技能	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
④　知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等：観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)教科書・問題集の問題：各問題への取組み、取り組んだ内容から評価する。 (5)定期テスト：学習内容にあわせて問題を出題し、その回答記述から評価する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	無機物質の性質と利用 ・無機物質 ・無機物質と人間生活	無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解させ、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
	物質の状態と平衡 ・状態変化 ・気体の性質 ・固体の構造 ・溶液と平衡	気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、妖怪平衡及び溶液の性質について理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
2	物質の変化と平衡 ・化学変化とエネルギー ・化学反応と化学平衡	化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
	有機化合物の性質と利用 ・有機化合物 ・有機化合物と人間生活	有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3	高分子化合物の性質と利用 ・高分子化合物 ・高分子化合物と人間生活	高分子化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。

教科・科目（単位数）		国語・国語演習　（２単位）		ＨＲ・コース	Ａ選択
学年	３　　年	教科書・副教材	ステップアップ日本語講座中級・新総合図説国語（東京書籍）プレゼミ総合国語（浜島書店）		

農業高校における国語科としての目標
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、科学と言語文化に対する関心を深め、農業従事者としての使命と責任を持ち、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
科目目標
・正しい日本語の習得（敬語・文法・文章表現など）と、読解力や語彙力を高める。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	敬語・文法・文法表現を理論的に理解しようとし、正しい日本語を習得しようとする。
②　書く・話す・聞く能力	語彙力を高めて、正確で豊かな表現をする。また、敬語を正しく用いてコミュニケーションを取る。
③　読む能力	演習問題を解くことを通じて、語彙力を高め、内容を的確に読み取る。
④　知識・理解	敬語の用法を理論的に理解し、正しく使う。文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解する。
評価方法	定期テスト、小テスト、課題、ノートやその他提出物等への取り組み状況などを、総合的に評価する。

学習計画

学期	学 習 項 目	主な学習活動（指導内容）
1	敬　語	・敬語の基礎基本を学び、用法を理論的に理解する。 ・時、場所、相手を考えて正しく使い、コミュニケーション力を高める。
	敬　語	・発展的な敬語の用法に触れ、敬語の応用力、実践力を高める。
2	語彙・表記	・語彙力を高めて、正確で豊かな表現ができるようになる。
	語彙・表記	・語彙や表記に関する発展的な内容を学び、演習問題を解くことを通じて、知識を確かなものにする。
3	総合問題	・問題を解くことで、これまでに学んだことを復習して、確実な知識にする。

教科・科目名（単位数）	A選択　食品流通・（２単位）	ＨＲ コース	31～35HR
学年　３年	使用教科書・副教材等	新版　食品流通（実教出版）	
目標　　農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と流通機構を理解させるとともに、食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	食品流通のしくみについて関心を持ち、食品の特性や流通機構に必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を身につけている。
②　思考・判断・表現	食品流通に関する学習を通して自ら思考を深め、疑問や与えられた課題を適切に判断し、系統的・体系的な考えを導き出すことができる。
③　技能	我が国の主な食品の商品特性や流通手段・経路と機能に関する基礎的な知識について学んだことをわかりやすく伝える事ができる。
④　知識・理解	食品流通のしくみや食品の品質の維持と効果率的な輸送や保管技術などの知識を習得することができる。
評価方法	食品流通に関心を持ち積極的に取り組んでいるか。 定期試験の成績やレポート・ノートの内容。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	現代生活と食品流通	現代生活と食品流通との関わりを知り、その重要性と安全性・効率性のあるフードシステムを学ぶ。
	経済活動と食料 食品流通のしくみと働き	経済全体における食品流通の位置づけや商品としての食品の特徴や農業と他産業との違い、流通経路と卸売業者と小売業者の役割を学ぶ。 需要曲線と供給曲線、価格決定のしくみを学ぶ。
2	おもな食品の流通	米、青果物、水産物、畜産物、加工食品の特性、用途、価格形成、流通方法等について学ぶ。
	食品の品質と規格	食品の役割、安全性、食品の品質とその品質を保証する法律を学ぶ。 食品の包装材や包装方法について学ぶ。 食品が変質する原因について学ぶ。
3	世界と日本の食料事情	世界と日本の食料事情について学び、現状の課題や解決する方法について考える。また各自の食生活についても見直し身近な問題として捉える。

教科・科目名（単位数）	家庭・生活と福祉（２単位）	ＨＲ コース	Ａ選択
学年　３年	使用教科書・副教材等	生活と福祉（実教出版）	

農業高校における家庭科（生活と福祉）としての目標
　農業に関する内容（農業生産物を使った介護食）を取り入れて、理解を深める。

科目の目標
　家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）　高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
（２）　高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
（３）　家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	高齢者の生活と福祉について関心をもち、その充実向上をめざして意欲的に取り組もうとするとともに実践的な態度を身につけようとしている。
②　思考・判断・表現	日本の高齢化の進展状況を理解し、高齢者の生活と福祉について見直そうと思考している。生活課題を解決するために、主体的に考え、表現している。
③　技能	介護に当たって、介護予防の考え方に基づいた見守りや適切な支援が大切であることを理解し、高齢者の生活と福祉に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。
④　知識・理解	高齢者の生活の質を高めるために、高齢者の健康と生活、介護などに関する知識を身につけ、自立生活支援と福祉の充実について理解している。

評価方法	・定期テスト（１、２学期の中間・期末、学年末テスト） ・プリント・レポートなど提出物の内容 ・授業への取り組み

学習計画

月	単元名	主な学習活動（指導内容）
4 5 6 7	福祉と健康・病気	・福祉について考え、福祉制度や法律の基本的知識を学ぶ。 ・健康とは何かについて考え、生活習慣病を中心に、病気の原因や治療について学ぶ。
	高齢者の心身の特徴	・高齢者疑似体験等を通して、高齢者の心身の特徴を具体的に理解する。
9	高齢者介護の基礎	・高齢者に適した食事作り等の実習を通して高齢者の介護について学ぶ。

10 11 12	介護の実習	・家庭看護の基本的な技術として、体位変換、止血・軽い熱中症やのどにものが詰まったときなどに対する応急手当の要点について理解する。 ・車いすの介護実習等を通して高齢者に対する理解を深め、介護予防や生活自立について学ぶ。
1 2	高齢者の自立生活支援 高齢者の法律と制度	・高齢者の生活の質を重視し、高齢者自身の希望が尊重され、その人らしい自立した生活を支援することが重要であることを理解する。 ・高齢者支援の法律と制度について理解し、高齢者をめぐる問題の現状・課題・展望について考える。

教科・科目名（単位数）	理科・生物　（２単位）	ＨＲ コース	全 （ＡＢＣ選択）

学年	３年	使用教科書・副教材等	生物（数研出版）・ﾘｰﾄﾞLightノート（数研出版） 生物総合資料(実教出版)

農業高校における理科としての目標：科学における基本的な原理・法則を理解し、農業科目を学ぶ上で必要となる論理的な思考力を養うことを目標とする。
科目目標：日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	身近な生物や生物現象への関心を高め、生徒自らが観察・実験などを行い、日常生活や社会と学習の内容に関わりがあることに気づく力を持つ。
②　思考・判断・表現	実験・観察などを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する見方や考え方を身に付けている。
③　技能	多種多様な生物や生物現象についての観察、実験などのねらいを明確にして計画・実施・考察ができる技能を身に付けている。
④　知識・理解	観察・実験などを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則などを理解でき、それを日常に反映することができる知識を身につけている。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、学習態度、生物への関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等：観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)教科書・問題集の問題：各問題への取組み、取り組んだ内容から評価する。 (5)中間・定期考査：学習内容にあわせて問題を出題し、その回答記述から評価する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	第１編生命現象と物質 １章　細胞と分子 ２章　代謝	・生命現象を支える物質の動きについて観察・実験などを通して探求し、タンパク質や核酸などの物質の動きを理解し､生命現象を分子レベルでとらえる。
	３章　遺伝情報の発現	・遺伝子の本体であるＤＮＡの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみそして、遺伝子発現の調節を理解する
2	第２編　生殖と発生 ４章　生殖と発生	・生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探求し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。
	第３編　生物の環境応答 ５章　動物の反応と行動 ６章　植物の環境応答	・環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探求し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。
3	第４編　生体と環境 ７章　生物群集と生態系 第５編　生物の進化と系統 ８章　生命の起源と進化 ９章　生物の系統	・生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、観察、実験などを通して探求し、生物界の多様性と系統を理解し、進化についての考え方を身に付ける。 ・多様な生物が多様な集団として、自然環境の中でどのようにして存続してきたかを理解する。

教科・科目名（単位数）	地理歴史・地理Ａ（２単位）	ＨＲ コース	Ａ・Ｂ選択

学年	３年	使用教科書・副教材等	高校生の地理Ａ（帝国書院） 地歴高等地図　現代世界とその歴史的背景(帝国書院) 図説地理資料世界の諸地域NOW2023（帝国書院）

農業高校における地理歴史科（地理）としての目標

　系統地理・地誌それぞれの学習単元の中で、気候・自然環境・農牧林水産業などの関連課題を重点的に取り扱い、理解を深める。

科目目標

　世界各地の生活・文化の特色など地誌的理解を深める。また、現代世界と日本が抱える諸問題とその解決に向けた取り組みについての考察を通じて、持続可能な社会をつくる方法を深究する。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、自然環境と人間生活について考察しようとしている。
②　思考・判断・表現	地理的事象から課題を見いだし、その課題について多角的また多面的に考察し、社会の変化や様々な立場・考え方を踏まえて判断し、適切な方法で表現している。
③　資料活用の技能	地理的事象に関する地図や統計・画像など地域に関する諸資料を適切に選択し、効果的に活用している。
④　知識・理解	現代社会の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

評価方法	○定期試験で、思考・判断・表現、資料読み取り、基本的な知識・理解の定着度合いを評価する。 ○課題レポート作成・課題レポートの相互評価、ポスターセッション、ペアワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた各種活動を数値化して評価する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	地球規模で広がる課題	○世界・日本の人口問題 ○貧困問題（先進国と途上国の経済格差） ○民族問題 ○地球環境問題　など
2	世界の諸地域の 生活と文化	○地形・気候（自然地理分野） ○文化・宗教（人文地理分野） ○世界の諸地域の生活（世界地誌・農業と食文化を中心に）
3	日本の自然環境と防災	○日本の自然環境 ○防災を考える（地震災害・火山災害・水害と防災） ○身近な地域の防災

教科・科目名（単位数）		農業・動物基礎（２単位）	ＨＲ・コース	３年Ａ選択
学年	３年	使用教科書・副教材等	観察する目が変わる　動物学入門（ベレ出版）	

科目目標

動物の基礎知識を習得し、人と動物のかかわりについて論理的に考える力を身につけ、愛玩動物・生産動物・野生動物の違いを理解させ、農業分野について応用的に活用できる態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	動物の行動や体の成り立ちについて興味・関心を持ち、動物の特徴を理解しようとしている。動物に関する知識習得のため、課題に主体的かつ継続的に取り組む態度を身につけている。
②　思考・判断・表現	動物の行動や体の成り立ち、習性について科学的にとらえている。動物と人の関係について基礎的な知識と技術を基に思考を深め、適切に表現している。
③　技能	動物の観察法に関する基礎的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	動物の行動や体の成り立ちに関する基礎的な知識を身につけ、意義や役割を理解している。

評価方法	授業への取り組み、振り返り、分析 定期試験の理解度 レポート・提出物の内容

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	・食べる（第1章） ・歩く（第2章）	・動物に備わっている食べるための機能について学習する。 ・体の動きや呼吸について学習する。
	・眠る（第3章） ・群れる（第4章）	・動物の睡眠について学習する。 ・群れの役割や構造について学習する。
2	・伝える・感じる（第5章） ・家族になる（第6章）	・視覚・聴覚・表情などの感情を表すことについて学習する。 ・求愛や出産・育児について学習する。
	・老いる・病む（第7章） ・共に生きる（第8章）	・長生き、ストレスや病気について学習する。 ・動物と人の共生について学習する。
3	・生産動物の特徴 ・実験動物の特徴 ・愛玩動物の特徴	・一般的な家畜の特徴と役割、法令を学習する。 ・実験動物の役割と活用方法について学習する。 ・愛玩動物と人との関わり、動物福祉について学習する。

教科・科目名（単位数）	日本史演習　（２単位）	ＨＲ コース	Ａ・Ｃ選択

学年	３　年	使用教科書・副教材等	高等学校日本史Ａ（清水書院） プロムナード日本史（浜島書店）

農業高校における地歴公民科（日本史演習）としての目標

現代の社会が、農業の学習をふまえて自分たちの身近な歴史から成立っていることを理解する。

科目目標

２年次必修の「日本史Ａ」の学習を基礎に日本史学習を深める。

また、現代社会を理解する上で必要と考えられる戦後史を、主体的に理解する力を養う。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	居住している地域や家族から聞いている時代の学習をすることで、現在の自分が、過去の歴史の上に成り立っていることを自覚して、歴史的な認識力を身につける。
②　思考・判断・表現	歴史的事象が、どのような理由で起きて、どのように推移し、どういった結果になったか理解する。そしてその結果が、その後の歴史や社会にどのように影響を与えたかを考察し、理解する。
③　資料活用の技能	出来事の原因、推移、結果を的確にまとめ、それを文章や図にて表現する。そして、その後の歴史とのつながりを時系列にまとめることによって、通史的に理解する。
④　知識・理解	基本的な歴史用語や、その具体的な内容を憶える。現代の生活や地域の生活で教養として身に付けたい知識を自分のものとする。

評価方法	定期テストの成績を中心に、課題の提出とその内容、ノートのまとめ方を合わせて評価する。 また、授業での質問の返答や授業での積極的な発言、ノートへの自主的な内容の記入などを評価する。また、映像や資料などを利用した授業では、レポートの提出とその内容、およびその発表を評価とする。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	近世から近代へ	近世、江戸時代の概要を再確認し、近代にいたるその素地が、江戸時代にあることを理解する。
	近代のはじまり 明治維新から近代国家の形成へ	明治維新を経て、明治政府の体制が確立する過程を理解することによって、現在の日本の政治体制の素地となっていることを知る。
2	立憲政体の成立と国際関係	近代国家の建設のなかで、自由民権運動と政党の結成とすすみ、立憲体制と議会が形成されていく過程を知る。このことを理解する中で、民衆を含め、自立的なかたちで議会政治が形成されることを導く。
	対外戦争と日本の敗戦	近代国家の発展とともに、軍事的な対外進出を進めていく要因を考えさせ、その結果としての世界大戦へ至る過程を知る。そして最終的に悲劇的な敗戦を迎える理由を考える。
3	戦後史から現代へ	敗戦後、民主国家となった日本の政治と、高度経済成長とともに資本主義経済の進展、そしてバブル崩壊を経て、現在に至る歴史を、自らの体験とあわせて理解する。